

小学校高学年対象の 『海事教室』

今回は、沖縄本島内の小学校に対し募集を行い、児童27人・保護者23人の計50人の親子が参加しました。乗船中の船内では、親子で「ロープ結び体験」を実施し、児童より夢中になつて練習する保護者や反対に親御さんに教える児童もいました。

約70分の航海を終えて渡嘉敷港に入港したあと、船員や船舶に関するDVD視聴、海技試験官による講演を聞き、いよいよグループ毎に分かれて船内見学の開始です。

船内では、一般客の立入が制限されて滅多に入れない船橋（ブリッジ）や機関室を見学しました。ブリッジでは、海図やコンパス、レーダーなどの操舵装置に参加者の方は、興味津々、機関室ではメインエンジンの大きさに参加者は驚いた様子でした。船内を見学した後は、毎月実施されている消防訓練体験を、防火部署と一緒に行いました。車両甲板での火災を想定し、くじ引きで決まつた船員役の児童が担当の船員と一緒に各配置に付き、船長役の児童が船内放送を行い、消火班役の児童が消火ホースで放水を体験しました。その後、全員車両甲板に集まり、希望す

去る11月15日、小学校高学年を対象とした「船のお仕事を学ぼう！親子で船体験！『海事教室』inとかしき」を実施しました。海事教室は、若年層の内航船員の確保推進を目的に、運輸部に事務局を置く「沖縄若年内航船員確保推進協議会」の取組の一環として開催され、平成23年度の開始から数えて5回目となります。

今回は、沖縄本島内の小学校に対し募集を行い、児童27人・保護者23人の計50人の親子が参加しました。

乗船中の船内では、親子で「ロープ結び体験」を実施し、児童より夢中になつて練習する保護者や反対に親御さんに教える児童もいました。

約70分の航海を終えて渡嘉敷港に入港したあと、船員や船舶に関するDVD視聴、海技試験官による講演を聞き、いよいよグループ毎に分かれて船内見学の開始です。

船内では、一般客の立入が制限されて滅多に入れない船橋（ブリッジ）や機関室を見学しました。ブリッジでは、海図やコンパス、レーダーなどの操舵装置に参加者の方は、興味津々、機関室ではメインエンジンの大きさに参加者は驚いた様子でした。船内を見学した後は、毎月実施されている消防訓練体験を、防火部署と一緒に行いました。車両甲板での火災を想定し、くじ引きで決まつた船員役の児童が担当の船員と一緒に各配置に付き、船長役の児童が船内放送を行い、消火班役の児童が消火ホースで放水を体験しました。その後、全員車両甲板に集まり、希望す

る児童が消防ホースでの放水体験を行いました。

帰りの船内では、救命胴衣の着用体験、救命いかだの中に入っている救難食料の試食や航海中のブリッジ

での航海当直体験をしました。航海直前に、見張りは船の運航の中で最も重要な業務であると説明を受け、交代で双眼鏡を覗きながら周辺の船の動静を確認していました。児童へのアンケートでは、約9割の児童が将来、船に関係する仕事をしてみたい、または少ししてみたいとの回答がありました。子ども達にとって、海の仕事が大変魅力的に感じた、想い出に残る体験となつたようです。